

県難言研ニュース

岩手県難聴言語障がい教育研究会事務局(盛岡市立桜城小学校内)

〒020-0022 盛岡市大通 3-8-1 Tel/Fax 019-624-0457

e-mail jimukyoku@iwate-nangen.jp http://www.iwate-nangen.jp

令和4年1月7日(金),今年度の県難言研大会が,午後からは,結成50周年記念大会が盛岡市のアイーナを会場に盛大に開催されました。本会報では,その様子をお知らせいたします。

第62回岩手県難聴言語障がい教育研究大会

大会主題 めざす子ども像を明らかにした,自立を促す指導・支援の在り方

～活動の機会を広げる工夫～

第1分科会	校長班	助言者	岩手県教育委員会事務局 学校教育室 特別支援教育課長	近藤 健一 先生
		発表者	二戸市立石切所小学校 校長	片野 正喜 先生

〇《学びのつながり》をキーワードに,校内研究と連動したことばの指導,通級指導教室の役割と校長の関わり方についての発表・協議が行われました。

<助言>

- ・校内研究の実践と特別支援教育の研究が連動した実践は,子どもたちの学びの自立につながっているという点ですばらしい。
- ・通常級,支援級,通級とつながる仕組みが,学校経営上大切な視点。言語の指導だけでなく,特別支援的な部分に対応する力量が問われている時代。そのような専門性の向上と継承,人材の育成を大事にしたい。



- ・小中の連携が難しい状況ということについて。まずは,多様な学び,柔軟な学びの場の中でどのような指導が行われているのかを知り合うことが大切。
- ・通級指導は対面で行うことが基本ではあるが,ICT活用が進む中,活動の機会を広げる工夫として,オンラインによる指導,ケース検討,研修も今後の可能性として検討していきたい。

第2分科会	難聴班	助言者	岩手県立盛岡聴覚支援学校 指導教諭	佐藤 陽子 先生
		発表者	久慈市立久慈小学校 教諭	小橋 昌子 先生

〇難聴児童生徒だけではなく,交流学級の児童生徒にも自らの課題に気付かせ,主体的な改善を目指した授業実践について協議を行いました。

<助言>

- ・発達段階に応じた指導のポイントがある。それぞれの段階に応じた指導を考えていくことが重要である。





- ・交流及び共同学習においては、みんなが心地よく集中できる環境、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどを意識することが大切。
- ・進路、就職においては、さまざま配慮されてきている。自分から環境改善の要望を伝えること、また、その力を付けていくことが必要である。
- ・電話リレーサービス、デジタル補聴援助システムの無償貸し出し、UDトークなど便利なサービスや機器も必要に応じて利用していきたい。

第3分科会	LD班	助言者	一関市立老松小学校	校長	森 和佳子 先生
		発表者	八幡平市立大更小学校 岩手町立沼宮内小学校 滝沢市立鶴飼小学校 一関市立一関中学校 一関市立磐井中学校	教諭 教諭 教諭 副校長 教諭	大志田 美樹子 先生 仁昌寺 利 明 先生 小野寺 真記子 先生 野 田 満 哉 先生 宇 部 敦 史 先生

○分科会①では、指導と評価の工夫、学習履歴の活用を通じた小学校の実践を発表しました。

○分科会②では、教室経営の実態と事例を考察した中学校の発表、さらに各地区の経営の実態を交流しました。

<助言>

- ・評価の仕方から、自己理解の深め方などを考えているところが良い。
- ・失敗することは多いが、答えはいつでも子どもがもっている。
- ・困り感をもっていない子供に、押しつけの指導をしていないか反省しながら支援していきたい。
- ・連携ファイルによって、視覚的に本人も一緒に認め合えたところが良かった。



- ・自己理解から生まれる合理的配慮の依頼が自分でできるようになったことがすばらしい。自分で説明したり相談したりする力を身に付けていくことがLDとしての役割である。2
- ・通級に行けば、わかるという環境が、子どもの安心につながっている。
- ・合理的配慮を拒む一番の壁は、教師の世界にある時代遅れな「公平性」である。中学校での合理的配慮の検討の積み重ねが、高校大学へとつながっていく。



第4分科会	岩 手	助言者	花巻市立花巻小学校	教諭	吉 池 稚重子 先生
		発表者	岩手町立沼宮内小学校	教諭	白 野 多 恵 先生

○安心できる場、ことばの教室をキーワードに、場面緘黙児童への支援の事例を発表しました。

<助言>

- ・場面緘黙の症状は氷山の一角。幼いうちに介入しないと、鬱になることもある。
- ・アセスメントの視点として、ゴールを話すこととしない。発話だけに注目するのではなく、その人らしさを大切にしたい。
- ・保護者との連携がとても重要である。
- ・活動は本人の意思を尊重し、スモールステップで苦手なことに少しかけチャレンジすることがアプローチの基本。
- ・無理なく安心できる環境を作っていたことが良い。語彙を広げる様々な活動が丁寧になされていたことが素晴らしい。



第5分科会	宮古	助言者 陸前高田市立気仙小学校	教諭 佐藤 司 先生
		発表者 山田町立山田小学校	教諭 盛内 俊彦 先生

○「学習シート」を活用した学習意欲を促す活動・評価の工夫についての実践を発表しました。

<助言>

- ・近年ことば以外の障がい種の子供が増えていて個別の指導計画の作成も大変。支援の在り方を考える時期なのかもしれない。
- ・学習シートは、流れをパターン化できていてわかりやすい。何を学習するのかが明瞭で、落ち着いて学習できる。
- ・構音指導の七つの課程を並列して行うことが必要。併せて行うことで、様々な評価ができる。



- ・振り返りの時間の確保は大変であるが、次時につなげるために必要である。
- ・紀要の指導上の配慮事項を参考にして、機能訓練の内容を決めるとよい。
- ・毎時間の取組を積み重ねることが、日々の生活に生きてくる。

第6分科会	胆江	助言者 花巻市立花巻小学校	教諭 吉池 稚重子 先生
		発表者 奥州市立衣川小学校	教諭 及川 愛 先生

○意欲を促す評価カードの工夫、通級での学びを生かす工夫を行った事例を発表しました。

<助言>

- ・児童の課題に沿ったためあてをつくりたい。実態把握、指導目標設定、指導内容の計画を丁寧に行うこと。
- ・子供と目標を共有することが大切。合意形成による取り組みをしていきたい。
- ・自己評価と自己批正力を一緒にしてはいけない。分けて考えること。



- ・よき理解者であり、味方になれるような関係づくりが大切。その上で学校への適応を一緒にしていきたい。
- ・環境調整が大切である。保護者の悩みをよく聞くこと。子供を取り巻く大人に理解してもらおうことを意識していきたい。
- ・多くの事例を示してもらえたのが良かった。研究の継続性が重要である。



第7分科会	県北	助言者 陸前高田市立気仙小学校	教諭 佐藤 司 先生
		発表者 洋野町立宿戸小学校	教諭 小豆嶋 睦美 先生

○巡回先の学校・学級との連携の在り方を探り、主体的に人と関わることができるようにするための学習活動の工夫を行った事例を発表しました。

<助言>

- ・学級担任と連携して、子供が安心して通級できるように工夫している。
- ・コロナ禍の中、できることをしっかりと行っている。
 - ・市町村でする部分がある。そこに担当者がどのように声を届けるかが大切。
 - ・親の会で教育委員会を訪問し、巡回先で困らないように必要なことを伝えていくことが大切。
 - ・どこでも平等に学習できるような環境づくりをしていくことが大切。
 - ・巡回のメリットデメリットがある。巡回は親との連携が難しくなることもある。陸前高田市の場合、学期に一度参観してもらおうようにして、保護者の理解を図るようにしている。



幼児班	講師 矢巾町教育研究所	専門員 金子 隆子 先生
-----	-------------	--------------

○手作り教材についての研修を行いました。

岩手県難聴言語障がい教育研究会結成50周年記念大会

大会主題

50年の歴史をふまえ、新しい時代につながる難聴・言語・LD等の教育の
専門性をめざして

小田島組☆ホールにて開催された記念式典では、紺野 好弘会長の挨拶に続き、50周年を記念し、18名の方々の功績をたたえ本会より表彰状が贈られました。また、本研究会の新しい名称が発表されました。

記念表彰受賞者の皆様

白澤 弘泰 様 (故)	陳岡 安雄 様	津川 哲二 様
佐々木 信孝 様	深田 好昭 様 (故)	似内 梢 様
伊藤 満久 様 (故)	外山 敏 様	田口 好子 様
吉丸 蓉子 様	佐藤 智一 様	森田 巧 様
千葉 茂 様	久保 四男 様	山崎 伸一 様
新沼 敏哉 様	坂本 信行 様	堺 秋子 様



新名称

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会

記念講演

演題 『ことばの力』

講師 作家 重松 清 氏



『子供の沈黙は何も無い空白ではない。その中にいろんなことばが詰まっている。』

その空白の意味を感じ取ることの大切さを学ばせていただきました。

『斜め後ろに何も言わず黙って立っていた先生がいた。その時安心できた。』

真正面からしっかり目を合わせることだけが共感のポジションとは限らない、その子にとって心地よい場所で見守り、待つことこそが寄り添うということ……。子供との向き合い方の大切な点を示唆していただきました。

『橋を架ける力が、ことばの力。お手軽な橋は流される。時間をかけて、不格好でも頑丈なことばの橋を架けてください。』

大切なものを運ぶための架け橋を、これから心を込めて丁寧に造っていきたいとお話を伺い決意を新たにしました。

～重松先生、ありがとうございました～

こんにちは！ 宮古地区研究会です

宮古地区研究会の会員は11名で構成されています。毎年4回の研究会を開催し、会員同士の絆を深めてまいりましたが、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、会員が一齐に集まることが難しい状況が続いておりました。そのような中、今年度はコロナ対策を取りつつ、念願の地区研究会を11月に開催することができました。久しぶりにお会いした会員の皆様と日頃の指導の悩みを語り合ううちに、心が晴れ、元気になり、次の日からの指導の活力になりました。これからもことばやきこえの教室に通う児童生徒が抱える困り感の克服と改善を目指し、会員同士の絆を大切に研鑽を積んでいきたいと思っております。

市町村名	教室名	担当・担任名	教室からひとこと
宮古市	宮古小学校ことばの教室	妻田 直子	今年度、20名からのスタート。本校含め、市内4つの学区のかわいい子供たちが通級しています。週一度の来室時、指導以外にもできる会話を楽しみにしながら指導しています。
	宮古市幼児ことばの教室	岡市美奈子 前川 理沙 佐々木幸子	宮古小学校へ移設されて2年目。親子が安心して通える楽しい雰囲気と環境づくりを心がけています。プレイルームのトランポリンは一番人気。元気に体を動かして学習開始です。
	千徳小学校ことばの教室	高橋 幸子	藤原小から移設して2年目。今年度は16名(本校9名、他校7名)が通級しています。真剣に練習して、楽しくおしゃべりをして、メリハリのある1時間を心がけています。
	千徳小学校難聴学級	中村 可起	コスモス学級です。コスモスの花言葉は、真心、調和、謙虚など…です。友だちと仲よくし、安心して楽しく過ごせる学級をめざしてがんばっています。
	田老第一小学校ことばの教室	関東 洋美	田老第一小の他に鎌ヶ崎小や崎山小へ巡回指導に行き、その良さを生かしそれぞれの学校の教育相談も行っています。タブレットを使いながら楽しく学習し、意欲付けしています。
	宮古西中学校難聴学級	佐守 央美	今年度は2名が在籍しています。中学校卒業後の進路を見据えながら、自分の課題と向き合い、日々成長できるように頑張っています。
山田町	山田小学校ことばの教室	盛内 俊彦	本校10名、他校1名、計11名のパワフルな子どもたちと、わいわい楽しく学習しています。「ポッキーなめ」「ボタンプル」など、毎時間、子どもたちと競争中です。
岩泉町	岩泉小学校ことばの教室	畠山栄美子	本校10名と、大川、小川、有芸、小本の巡回計8名を指導しています。4・5歳児の言語検査も毎年行っており、就学後にどんどん成長していく姿を見るのが楽しみです。
田野畑村	田野畑小学校ことばの教室	塚越 範和	県内の市町村の中では、最後に通級指導教室が開設されて、来年度で10年目となります。本校通級の児童9名が、課題の克服を目指しながら元気に通級しています。



田野畑 北山崎



岩泉 龍泉洞



田老 三王岩



宮古 浄土ヶ浜



山田 オランダ島